

そ う ぜ ん じ 便 り

19世 俊諦和尚筆

第 137 号

令和元年 お盆号

臨 濟 宗 宗 禪 寺
建 長 寺 派

住 職 高井和正
閑栖和尚 高井正俊

羽村市川崎2-8-20

TEL 042-554-1276

FAX 042-578-3525

お寺では毎年お盆の供養で施餓鬼法要を執り行っておりま
す。近在の和尚様が多数来山しご読経下さる莊嚴な法要です。
新盆をお迎えする皆様はもちろん、孟蘭盆供養の法要です。
皆様のご来山をお待ちしております。

セ ガ キ 施 餓 鬼 大 法 要

七月十五日(月・祝)

◆ 十三時 御詠歌奉詠

受付は十二時より

◆ 十三時十分 法話

羽村 禅林寺 岡崎啓純 住職

◆ 十四時 施餓鬼(せがき)大法要

○先祖代々等、孟蘭盆供養のお塔婆をお寺で随時受け付けております。
一本三千円です。

○お布施(施餓鬼供養料と付届け)は封筒の通りです。よろしく願ひ致します。

○お盆の早朝坐禅会に是非お越し下さい。七月十三日、十六日、毎朝六時から七時です。

○駐車場は寺の前と裏(第二駐車場)があります。七月十五日には、薬師堂の裏の駐車場は、和尚様方の専用となります。

施 餓 鬼 大 法 要
式次第第 37 回

12時 受付開始 受付は一般、新盆、とうろう流しと三カ所あります。

12時50分 御詠歌奉詠 **13時10分** 法話 羽村禅林寺 岡崎啓純 師

14時 施餓鬼(せがき)大法要

- ・近在、法縁のある和尚様による莊嚴な大法要です。
- ・施餓鬼和讃を参加者全員でお唱えします。
- ・和尚の読経、水向けと施米(餓鬼に水とお米を施します)
- ・ご参列の皆様へ水向け、施米をしていただき、御先祖様に感謝の気持ちをお届けします。

15時 和尚と総代様から御礼のご挨拶があります。

- ・餓鬼旗(供養の目印)をもらってお墓参り。一軒に一本です。

第 37 回
羽村灯籠流し

◆日時 8月3日(土) 午後6時半より ◆会場 宮の下運動公園

川崎地区売り歩きは7月7日(日)9時からです。灯籠は施餓鬼当日、羽村夏祭り、当日会場でもお分け致します。灯籠代は千円です。

駐車場も確保していますので、是非一度ご来場いただき、暗闇の中で綺麗に輝く灯籠を一度間近でご観賞いただければ有り難いです。

第21回 宗禅寺春の文化展

春の文化展も二十一回目を迎えました。「お寺から地域文化の発信を」という理念が、寺子屋委員会、総代会、護持会、地域の皆様のお力によって結集し、文化展が具体的な形となって歩んできました。二十年という時間の経過の中で、ご高齢により勇退される方もいらっしゃる中、新しくご参加いただける若いお力も充実しており、携わってくださったすべての皆様に御礼申し上げます。

◇日程

平成三十一年三月二十一日～二十四日

四日間開催

◇実行委員会

二回実施―二月二日、三月二日

◇開会式(事前準備・作品搬入)

三月二十日 午後一時

御本尊様に参加者一同にて般若心経読経

◇特別展 羽村・福生ゆかりの皆様の作品展

「はむら・アート展」

出品者

並木風磨氏(イラスト)

島田敦子氏(アクリル)

上田泰徳氏(日本画)

沖本茂子氏(水墨画)

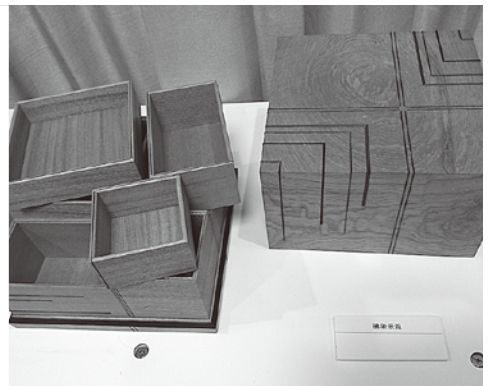
五十嵐誠氏(木工芸)

雨倉 充氏(油 彩)

高橋隆助氏(油 彩)



春の文化展開会式終了後に出品者皆様と記念撮影。



五十嵐誠さんの木工芸。五十嵐さんは漆工芸の並木恒延先生の娘さんの檀那さんです。



市内在住の上田泰徳さん。新しくご縁をいただき、有り難く思っております。

第21回宗禪寺
春の文化展

平成31年3月21日(木)～24日(日)
午前10時～午後4時
(最終日は、午後3時まで)

特別展
「はむら・アート展」

特別企画展
五風・並木・雨倉・神本・高橋・上田・島田・森田
風摩・充・吾成子・雅助・泰徳・敦子

福知山 福知山 福知山 福知山 福知山 福知山 福知山 福知山

(順不同・敬称略・誤字・脱字・記載もれ等)ございましたらお許し下さい)

天川 紀香 一点	森 有輝 及川昌子	加藤紀代 木村則夫	篆刻	中野 三矢 二点	永瀬宗江社中
パッチワーク	秋山晴哉 秋山和代	新井 達矢 六点	中野 輝山 二点	中野 三矢 二点	中野満子社中
中村 順子 六点	下別府大和 指田佑樹	梅林 孝治 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆受付
◆ハギレアート	松葉麗瞳 秋山晴之	久保田昭夫 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆護持会・総代会
山浦 倫子 四点	福田糊都 立石 和	吉川 永司 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆宮繕
◆折り紙	岡さくら 池永陽俊	吉田 尚弘 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆葉師講中
五味 建雄 十点	◆絵画	梅林 春男 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆来山見学者
折り紙実演指導実施	渡部 清孝 二点	稲田多喜夫 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆初日 二百五十四名
◆山野草	関根 晃 三点	平澤由美子 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆二日目 百三十七名
中里 昌子 十点	海和 綾子 二点	諸井 末男 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆三日目 百七十七名
◆パソコン画	中里 國英 一点	小柳 祥子 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆最終日 百七十七名
小俣 道代 二点	宮田 照子 一点	高橋 勝雄 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆合計 七百三十八名
◆編み物	降旗 廣行 二点	白井 義久 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆春の文化展役員
大久保白枝 二点	吉野 早苗 二点	◆木彫	中野 つたえ	中野 つたえ	◆委員長 中野恒雄
山北 南子 二点	中村 浩 一点	柴田 久和 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆副委員長 中野祐司
島田セツ子 二点	雨倉 久一 一点	中島 岩雄 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆写真
沢本 良江 二点	北沢 秀郷 二点	加藤 紀代 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆小林美恵子 三点
前池 幸子 二点	井口 和也 一点	◆水墨画	中野 つたえ	中野 つたえ	◆雨倉 久一 二点
清水 恒子 二点	故雨倉 クラ 一点	岡野 美蒼 四点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆佐藤 一雄 二点
里塾 文子 二点	◆色鉛筆画	長谷川あき子 三点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆中根 勉 二点
佐久間真理子 二点	高橋 信吾 一点	高梨富貴子 三点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆島田 昌稔 二点
大浦 千織 二点	◆フィッシュモデル	稲石 国子 三点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆新井 信三 三点
市村 陽子 二点	高橋 信吾 一点	福井 伴子 三点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆吉野 敬子 三点
◆押し花	◆鉛筆画	◆書道	中野 つたえ	中野 つたえ	◆佐藤 禮子 二点
雨倉 由美子 三点	吉田 浩康 二点	渡辺 結衣 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆磯貝 充宏 二点
◆陶芸	◆木版画	秋山 杏寿 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆友情出品
中根ヨネ子 八点	小柳 祥子 二点	白井 杏鈴 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆絵画
磯部 正喜 二点	光山 満春 一点	加藤 聰子 五点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆石井 秀卓 二点
白木 猛 二点	◆尺八	白川タイ子 一点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆篆刻
渡部 清孝 四点	坂井 頼利	川口 道子 二点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆柳澤 玉咲 一点
◆造形	尺八演奏	島田 萃芳 七点	中野 つたえ	中野 つたえ	◆抹茶施茶
伊藤 武司 一点	坂井頼利 水村辰也		中野 つたえ	中野 つたえ	◆中里宗美社中

花祭り法要と花展覧会

四月八日は仏教の開祖、お釈迦様の誕生日です。ご生誕を祝して、花祭り法要と花の展覧会を開催致しました。

花展覧会は六日(土)の午前中に活け込みをして下さり、三日間南の間と本堂池川の坐禅堂に展示させていただきました。



参加者皆様で御詠歌を一緒に唱えました。



本堂玄関前で花供養。
来場者が一人一輪、
花を活けこみます。

花祭り法要は八日(月)に、御詠歌、法話に続き、福生鳳友会様による生田流の箏とギターの生演奏に併せ、草月流の上原瑞光先生が活け込みを行って下さいました。

花祭り法要と花展覧会は毎年開催致します。春のひと時をお寺で一緒に過ごしませんか? 来年の皆様のご参加をお待ちしております。



生田流鳳友会の中根喜美子さんからご挨拶。毎年ありがとうございます。



草月流 上原瑞光先生が演奏中に活け込みの実演して下さいました。

〔花展・出品者の皆様(敬称略)〕

○羽村市華道会

・小原流

上田保子 倉持理可 井上泰男

・龍生派

橋本里子 武藤陽子 中野菊枝 小林英子

神田弘子 加藤孝子 中村美恵子 中野百々花

・池坊

加藤公子 山崎真由美 加藤 楓 田村和憲

田中喜久江 田中葉月

・草月流

吉田信子 桜沢康子 田村孝枝

○横浜華道協会

・池坊

川嶋孝憲

○フラワーアレンジメント

・タマフラワーアカデミー

天川紀香 酒井真由美

・ライブ活け込み

草月流 上原瑞光

以上

3月11日 東日本大震災 復興支援托鉢・写経

毎月1の付く日に写経会が行われています。東日本大震災が起った三月十一日も毎年写経が行われています。

本年三月十一日から地元の臨済宗の仏教会、西東京臨済会の有志の若手和尚様が復興支援の托鉢を毎年羽村と青梅で行うこととなりました。



当日行われた写経会の皆様からも復興支援の義援金をお預かり致しました。

本年は九名の和尚様が宗禅寺に集まって下さり、羽村川崎地区と福生の加美平ちくを托鉢させていただきました。

当日托鉢終了後二時四十六分に合わせて、和尚様と写経会四十名の皆様が合同で震災追悼復興祈願法要を営み、皆でお経をお読み致しました。

来年も羽村で引き続き托鉢を行う予定であります。被災地支援をよろしく願います。



托鉢に集まって下さった和尚様



仏教会で災害支援部を立ち上げた、雨間の地藏院渡辺光成和尚様からご挨拶

文庫長だより 島田 秀男

五月一日は、元号が「平成」から「令和」に変わり、平成の天皇は退位され「上皇」に、美智子さまは「上皇后」となり、皇太子さまが新天皇に即位され、雅子さまが新皇后となるなど祝賀ムードでいっぱいの日でした。テレビでは即位式関連のニュースが放映されていて、つい一日中見てしまいました。

皇居・宮殿ではさまざまな引き継ぎの儀式が行われていましたが、皇居内にある養蚕施設「紅葉山御養蚕所」でのカイコを飼う行事も、上皇后美智子さまから皇后雅子さまに引き継がれたとのことでした。

皇室と養蚕は明治四年長らく途絶えていた宮中での養蚕を復活させて、途中戦災などで中断した時期もありましたが、現在まで続けられています。春蚕のみを飼育されて、取り扱う種は純国産種の「小石丸」です。収穫された繭は、正倉院の古代裂(きれ)の復原などに用いられています。

羽村では、盛んに養蚕を行っていた時期がありました。『西多摩村農事調査附村是』(明治三十七年東京府農会発行)に、当時の西多摩村(現在の羽村市)では、農業生産額の七割が繭と生糸の生産であって、普通農業と両立させることはむずかしく、多くの田畑は桑園化したとあります。農村とはい

ながら、日常食料品も他村から買い求めているような状況であったのです。

農事調査の将来の部には、村是(村の招来像)として一七項目をあげ、第一として「蚕業の改良」、第二として「製糸の改良」を目標にしています。

養蚕業を村の主産業にした大きな理由は、安政五年横浜が開港された以降繭の需要が急激に伸び養蚕が有利な産業として広まったことや指田茂十郎や下田伊左衛門の先覚者がいたことがあげられます。

下田や指田は、養蚕先進地である群馬や長野を視察し新しい養蚕技術を導入してきて、養蚕集談会で一般に普及させ、蚕具や飼育法の改良などの研究をすすめ、村内に定着させました。

特に下田は明治二三年に成進社を創設し、養蚕指導や技術者の養成、蚕種の自主検査などを行ったことも西多摩村の養蚕発展に大きく貢献しました。

『西多摩村誌』(昭和三年発行)には、養蚕業の発展は明治後半から大正時代にかけてピークを迎え、大正八年に最高潮に達したとあります。大正八年の養蚕農家数は春蚕三二八戸、秋蚕三四五戸で、世帯数が七八八戸でしたから、秋蚕農家数は全世帯の四三・八%を占めていました。地域別にみると、川崎五四・五%、五ノ神五三・二%、東ヶ谷戸二五・九%、奈賀二九・四%、加美六四・七%、

小作四〇・〇%となり、加美と川崎地区が養蚕農家の比率が高かったのです。

大正八年の繭の収穫量は、一二一・九五〇キログラム(秋蚕)となり、全国での十指に数えられるほどでした。

養蚕業はもともと好況と不況の影響を受けやすく、昭和四年アメリカウォール街の大暴落を発端にはじまった世界恐慌によって生糸価格が大幅に下がり、養蚕農家に打撃を与えました。その後も価格は上昇することなく、西多摩村の養蚕業も徐々に衰退していったのです。

昭和五年発行の『西多摩郡養蚕組合連合会会報』には、吉野会長の巻頭言で「有史以来稀に見る繭価安にて吾々養蚕者をして極度の悲境に陥らしめたる終生忘れるべからざる一大恨事なり」と述べています。同誌「文苑」に掲載された短歌に繭の値の安き話を耳にしつつ心おもたたく家に帰れりとあります。

養蚕とともに盛衰を刻んだ羽村は、蚕室が少し残されていますが、蚕を飼う家は一軒もなくなり、一面に広がった桑畑も見ることもできなくなりました。

《参考図書》

『羽村町農業協同組合史』

年忌にあたる御霊位

本年八月から十一月に節目の年忌を迎える皆様です。ご法要のお申込みはお電話でも大丈夫です。ご不明な点もお気軽に寺にご相談下さい。ご都合でご法要をなさらない場合には、お塔婆を建てての墓参供養もございます。ご家族皆様で真心を形に表しましょう。

◆年忌霊位（八月～十一月まで）

一周忌 平成三十年御逝去

御命日 故人御芳名（敬称略）

八月	上旬	小島 キヨ
八月	六日	為ヶ谷喜美
八月	十二日	高橋 和代
八月	二十二日	秋澤 良江
八月	二十六日	水上二三夫
九月	九日	水村 房代
九月	二十一日	大久保恒夫
九月	二十七日	中村 厚子
十月	一日	平田 蓮治
十月	二日	水村やえ子
十月	十三日	大野カツ子
十月	二十二日	大久保孝志
十月	二十三日	秋山平三郎
十月	二十五日	小坂 多七
十一月	二十一日	日野 文良
十一月	二十七日	中野 裕子
十一月	二十七日	青木キヨノ

三回忌 平成二十九年御逝去

八月	八日	関矢 義之
八月	十七日	島田 しづ
八月	二十二日	石角作之丞

九月	五日	横田 久一
九月	十日	島田美重子
十月	十一日	島田 富夫
十月	十五日	星野 正之
十月	二十六日	大竹 峰人
十一月	三十一日	小宮山琴枝
十一月	六日	鈴木 寛二
十一月	二十一日	池田トキ子
十一月	二十二日	新井 美雪
十一月	三十日	大塚 清子

七回忌 平成二十五年御逝去

八月	一日	平井 巳芳
八月	一日	中根 龍男
八月	十三日	中野 末男
八月	十五日	中野 達男
九月	四日	清水 アサ
九月	八日	中里 輝年
九月	二十二日	太田須美枝
九月	二十七日	森本 恭王
十月	一日	中根 辰雄
十月	十五日	小出キミ子
十月	十七日	深野 之伯
十月	二十四日	松田フジ子
十一月	十日	吉田 幸二

十三回忌 平成十九年御逝去

十一月	二十日	中野 善治
十一月	二十四日	中村 保雄
十一月	二十七日	近藤 博

八月	七日	島田 弥一
九月	二日	加藤 茂樹
九月	十五日	田中 カネ
十月	五日	斎藤 テル
十月	十六日	渡辺 佐平
十月	二十二日	島田 守子
十月	二十三日	島田 宏子
十月	二十五日	西山 健三
十一月	一日	岡野八重子
十一月	七日	柿崎 修一
十一月	九日	小林 久平
十一月	二十八日	島田 定雄
十一月	三十日	中村 正重

十七回忌 平成十五年御逝去

九月	二十日	島田 トミ
九月	二十一日	大野 イト
十月	九日	市川 友治
十月	十一日	小林 ハツ
十月	二十一日	清水 スミ
十月	二十八日	竹中貴美子
十一月	十六日	桑谷 英明

二十三回忌 平成九年御逝去

八月	一日	佐久間史衛
八月	六日	中野家
八月	十七日	末永 薫
九月	四日	松崎 高美
九月	十六日	宮寺 春雄
九月	十六日	楠森 信次

二十七回忌 平成五年御逝去

十月	一日	板橋 裕
十月	五日	島田 力三
十月	七日	菊地 久吉
十月	十六日	小林 新一
十一月	三十日	平澤 サダ
十一月	十一日	雨倉ヨシ子
十一月	二十五日	西山 愛善

三十三回忌 昭和六十二年御逝去

八月	六日	井上 要
八月	十七日	佐藤 ハル
八月	二十九日	秋山 梅子
九月	九日	千葉 兆助
九月	二十四日	安藤大五郎
九月	三十日	秋山 藤子
十月	七日	草野千佐子
十月	二十六日	中里ジュン
十一月	三十一日	新井 イセ
十一月	三日	山田 勝次
十一月	十日	馬田 正信
十一月	十日	設楽家
十一月	十九日	雨倉 クラ

御命日の朝。本堂でお経をよませていただいております

正俊閑栖和尚の寺日記

鎌倉の生活（今でも月に四・五回いつています）、宗禅寺の生活も形が出来上がり、落ち着いて毎日を過ごしています。寺の葬儀・法要は和正和尚が主となって行っています。私は土曜講座や宗禅寺での各種イベント、鎌倉での用をしています。

○文化展に備え、第二回目の実行委員会を開催しました。三十人の参加。3/2

○朝粥坐禅会十五人。清浄心を味わいます。新潟から来客。中野のスタジオアルタで牧三千子さんの無言劇。3/3

○土曜講座 鎌倉禅の講師ほぼ決定。羽村・瑞穂の土地有効活用検討。3/4

○鎌倉 大覚録を読む会へ。3/5

○禅センター 体操へ。大盛況 3/8

○川崎 災害支援托鉢。写経の会四十人。俳句の会五人。二時四十六分、東日本大震災追悼復興法要。和尚十四人を含め、六十人でしめやかに読経。3/11

○鎌倉・松ヶ岡文庫役員会。日本橋高島屋で手塚雄二展。3/13

○横浜高島屋で河村喜史展。東慶寺で鎌禅会（横田円覚寺管長の仏光録）3/14

○坐禅会十八人。発送作業していただく。いつもながら、感謝です。3/16

○鎌倉でらこや感謝祭 於大仏 3/17

○春の彼岸 早朝坐禅会。二十四日まで。毎回七・八人ですが、続いています。3/18

○春の文化展準備 六十人の出品者の方々と。一時にお経。三時完了 3/20

○春の文化展 二十四日まで。多士済々。四日間で受付八百三十人。関係者を入れると、千人を超す参加見学。並木恒延さん芸術院賞受賞の大朗報。

○山田知未・伊藤恭子さん来山。文化展終了後、福生萬蔵へ。淑子さんも 3/24

○湯島麟祥院小川先生臨済録講義 3/25

○うどん教室加藤組 花展打ち合わせ。花供養の準備始まる。3/26

○武陽ガス山下光一氏社葬へ。立川。3/27

○鎌倉禅研究会 館・小島先生。八時、高円寺エスペランサ小林伴子・遠藤綾子さんのフラメンコへ。3/28

●三月の来山者は、お彼岸・文化展もあり、四五〇四人でした。お寺に沢山の方が来てくれ、ありがたいです。

○鶯谷 円光寺で法要・葬儀座談会 4/4

○文化展 反省会二十二人。4/5

○花まつり 花活けこみ午前中、午後より花展始まる。木彫教室、坐禅会 4/6

○朝粥坐禅会。花供養。今日の来山者百人。4/7

○花まつり・花供養・琴ライブ。お釈迦様の誕生を祝して、全員で読経、御詠歌奉詠。鳳友会琴ライブ。上原瑞光さん花活けこみ実演。百二十人で盛大な花まつり。お寺が、皆の衆・皆の寺になったことを実感。4/8

○いわき・龍春寺本堂落慶式へ。和正和尚、長福寺渡辺師と共に。夜、並木恒延さん御祝い打ち合わせ。4/10

○鎌倉禅研究会 高橋秀栄先生、彭丹さん。終わって尾崎で一献。4/11

○蓮植えかえ三鉢。滴水道場、看板書く。竹田博志さん計報。4/12

○横須賀中央斎場で竹田博志さん読経後、日本経済新聞社の方々で一献 4/13

○建長寺住職研修会 中華街ロイズホテル。中味の濃い研修。4/16

○鎌倉塾 建長寺でのお話し。4/17

○上野・宋雲院 佐々木閑先生「釈迦」。三ツ井記念美術館「円覚寺の至宝」展開幕式へ。4/19

- 花展反省会 皆で般若心経。車屋のお弁当。宗禅寺を桜の寺に宣言。 4/22
- うどん教室(現在二組)、いつも出来たての美味いうどん(そば)頂戴。 4/23
- 建長寺詠歌講研修旅行に参加。時頼伝説と恐山、弘前城桜の満開の中、長尾圭さん夫妻に会う。びっくり、嬉しい。 4/24、26
- 禅林寺さんで中里介山忌。法要・墓参、島田秀男さん講演、菊地洋子さん講演「玉川上水物語」、本堂・ホールも満員。土曜講座合同事業。七十人の参加 4/28
- 大船・いろはで鎌倉塾企画会議 4/29
- 四月の来山者は一二三七人でした。花まつり、花供養が盛大にできました。
- 写経の会 令和元年初めての会 5/1
- 望月敬生さん、彭丹さんの本、原稿二つ完成。やれやれ、ほっと。 5/2
- 丸和育英会、橋本忠夫さん来山 5/4
- 朝粥坐禅会二十二人の満衆。 5/5
- 湯島麟祥院 小川先生臨済録、宇和島大乘寺の老師初対面。国立高出身 5/6
- 宮島・大聖院結婚式。前日は縮景園からいとこのお店「清川」へ。当日は宮島の大聖院へ。結婚式に出て、広島原爆の碑をお参りして披露宴へ。 5/7、8
- 豊橋・正宗寺津送(お葬式)。終わって、

- 老津の太平寺表敬訪問。陶器頂戴。 5/10
- 孫 ルリ・カノと竹の子掘り。三ツ井記念美術館円覚寺展と講座、浅見龍介さん。宗禅寺土曜坐禅会二十二人。 5/11
- 鎌倉禅居院、先住職法要。昭島廣福寺和尚と食事。種々意見交換。 5/14
- 上野・東博で東寺展。玄侑宗久さん、と遭遇。来年の土曜講座依頼。 5/15
- 建長寺小方丈「大覚録」、東慶寺で鎌禅会「仏光録」。ゼいたくなひと時 5/16
- 梅林さん 整理棚納入。部屋整理。 5/17
- 土曜講座・木彫教室・土曜坐禅会。講座は多摩自慢と江ノ電。石川義郎・深谷研二さん。 5/18
- 昭島・廣福寺 宗雪和尚の三十三回忌。帰山して、写経会・御詠歌講。 5/21
- 銀座ライオンで竹田博志さん偲ぶ会。建長寺雲龍図でお世話になる。 5/23
- 禅センター体操教室に参加。 5/24
- 三ツ井記念美術館・講座、終わって淑子さんと銀ブラ。食事。 5/25
- 伊勢原、能満寺本堂山門落慶式へ。和正和尚の車で。助かります。 5/27
- 鎌倉芸術館で鎌倉てらこや総会。後、お疲れさん会。若い人頼もしい 5/28
- 寺子屋委員会 勉強会。秋山義徳市議初

- 参加。結婚四十周年記念日。 5/29
- 鎌倉禅研究会で建長寺へ。講師は三浦浩樹・川本慎自両先生。鈴屋で一献。 5/30
- 五月、いろいろ忙しい月でした。来山された方九七四人でした。
- 三ツ井記念美術館で梅沢恵さんの講義。ビール小屋鳳友会慰労会で徹っさんのイトコ栗原宜幸さんに会う。感激。 6/1
- 鎌倉塾 企画会議で大船へ。大いに盛り上がる。若き良き友と。 6/4
- 五日市 長島邸でバーベキュー 6/5
- 須坂市豊樂庵 滴水道場開単落慶。高井家三人、梅林親子、渡辺さん。とてもリラックスした楽しい会でした。私は残って高山温泉の山田館泊。 6/6、7
- 柏崎市高柳町 貞観園(史跡庭園)評議員会へ。草花の柴田正文さんに送っていただく。七時発十時着。じゅんのび村で昼食。貞観園行くたびに綺麗。 6/8
- 鎌倉・松ヶ岡文庫評議員会。将来の展望が示される。任期あと二年。午後三時から麟祥院小川先生勉強会。 6/10
- 長徳寺住職甘来誼章和尚遷化。七十五歳。 6/18

和正和尚日單

- ご祈禱 施主さんの依頼にて薬師堂にて
ご祈禱。大般若經、薬師真言 3/8
- 土曜講座 武政健太郎さんと新井二郎さん。
3/9
- 消防 晩に消防の役員会へ 3/9
- 托鉢 三月十一日、被災地への義援金の托鉢を羽村川崎地区で行う。僧侶八人。二時四十六分から写経会の皆様と追善供養法要も一緒に。 3/11
- 護持会清掃 彼岸前の境内清掃。護持会と薬師講有志の皆様と。お昼はうどん教室の皆様のごどん。 3/12
- 篆刻 伯母が先生をしている篆刻教室へ。まだまだ手取り足取り教えていたのかな
いと、できません。 3/13
- そうぜんじ便り 彼岸号完成。發送一一
〇〇通。發送作業。 3/17
- 彼岸早朝坐禅会 二十四日まで毎朝坐禅会。 3/18
- 瑠璃花と花音 娘たちが春休みに入る。
としまえんにお出かけ。 3/18
- 文化展準備 午後に島田文庫長と文化展

- 特別展の作品をご自宅にうかがい、お預かりする。 3/19
- 文化展搬入 春の文化展作品の搬入。搬入前に本堂で一同、般若心経で御本尊様に手を合わす。 3/20
- 春の文化展 今年は羽村アート。地元ゆかりの皆様の特展。四日間開催。 3/21～24
- 消防 一分団総会。年度末です。 3/23
- 文化展 展覧会も終わり、お預かりしていた作品をご自宅に返却する。 3/25
- 花祭り花展 午後から花展の打ち合わせ。華道会の皆様と。 3/26
- 立川パレスホテル 福生武陽ガスの山下さんの社葬にて読経。僧侶八名。 3/27
- 谷中 綾子さんと娘たちと谷中の墓参りへ。 3/29
- 消防 ゆとろぎで入退団式。新入団員二名。二人とも大野君。本年度より部長になる。 3/31
- 色々 伊勢原能満寺さん、本堂落慶のご祝儀を直接お届け。大船ひがし幼稚園、文化展の作品返却。鵜沼海岸、花祭りに使う花器を上原先生のご自宅にお預かりに上がる。 4/3
- 花見 消防で花見。天気良く、外ででき

- た。けんちん汁。 4/4
- 梅林さん親子 花祭り用の花器を本堂玄関前に作成して下さる。 4/5
- 文化展打ち上げ 客殿で昼から打ち上げ反省会。鉢の木のお弁当。 4/5
- 花祭り花展 午前中に花の活け込み。三日間開催。 4/6～8
- 花祭り法要 中根喜美子さん鳳友会の箏の演奏、御詠歌、法話、上原先生の活け込み。今年も本堂花いっぱい、人いっぱい。 4/8
- 三芳町・多福寺 叔父にあたる晃明和尚の一周忌へ。石塔完成し、法要後納骨。 4/9
- いわき・龍春寺 本堂落慶式のため正俊和尚、入間長福寺和尚様と一緒に車でいわきへ。導師は龍澤寺の後藤榮山老師。老師を囲んで夕食 4/9～10
- 消防 春のお祭りの警戒へ。子供達にお菓子。 4/14
- 住職研修会 横浜で本山の研修会。鈴木佐さん、彭丹先生、野火止平林寺松竹老師等、講師多彩。 4/16～17
- 書道 月一回宗禅寺で書道をしています。まだまだ。 4/18
- 上野 宋雲院さんで佐々木閑先生による

お釈迦様の勉強会。正俊和尚と。銀座、三ツ井記念美術館での「円覚寺展」開会式へ。 4/19

○八王子 晩に八王子で廣徳寺さんとモーリス君と龍澤旧友会。先輩四名と。 4/21

○花展反省会 宗禅寺で花祭り花展の反省会と福生・清岩院で幹事会。発熱で欠席。 4/22

○雨間地藏院 西東京臨済会幹事会。研修会の案内状、三月の托鉢の御礼状を会員寺院様に発送。研修旅行の幹事になる。 4/25

○あきる野・能満寺 山門落慶・伊藤元聡和尚晋山式へ。伊藤和尚さんは保育園の園長先生。 4/27

○土曜講座 禅林寺さんで中里介山忌。法要墓参と、島田文庫長の講演、菊地さんの講演「玉川上水物語」 4/28

○花音 晩に喉がかゆくなり、顔に蕁麻疹？ パイナップルか？青梅総合へ。 4/29

○宗禅寺 都内の友人が来訪。バーベキュー。友人の友人で、コロンビア人の親子も一緒に参加。お酒と食べ物で言葉の壁を越える。 5/1

○横浜 綾子さんと子供達と横浜へ。流石に人手がすごい。野毛山動物園等。 5/2

○保護司 川西、宮沢正弘さん来山。保護司就任の依頼を受ける。受諾 5/3

○宗禅寺 坐禅会二十名。 5/4

○朝粥坐禅会 GWもなんのその、二十二名のご参加をいただく。坐禅後にお粥。 5/5

○谷中 両親、兄弟姉家族と過ごす。一歳の清正君の食欲がすごい。 5/5

○戯縁会 谷中興禅寺で若手僧侶で自主勉強会。法式と日本禅宗史。 5/8

○坐禅研修 十時～十一時半で宗禅寺で福生第四小学校の子供たちが坐禅研修。親御さん合わせて十五名ほど。いつでも受け付けております。 5/11

○羽村チャリティゴルフ 今回で四回目の参加です。スコア156 5/15

○消防 動物園駐車場で分団全体訓練。 5/16

○土曜講座 石川義郎さんと江の島電鉄の前社長深谷様。 5/18

○建長寺 青少年委員会。午前中のレスキュー講習は荒天により消防署側からキャンセル。午後から会議。7月のお泊り子供会のこと。 5/21

○谷中 興禅寺施餓鬼法要荷担。受付と読経。 5/22

○消防 富士見公園で規律・ポンプ操法訓練。暑い。 5/26

○伊勢原・能満寺 本堂と山門の落慶法要へ正俊和尚と。 5/27

○消防 ポンプ操法審査会への訓練開始。週四日。大会はお盆中の七月十四日。一週間でいいから日程ずらして欲しい・・・ 5/27

○オレンジカフェ 市役所と福ら笑さんが来山。今年もオレンジカフェを宗禅寺で開催致します。 5/28

○寺子屋委員会 文化展以来久しぶりの寺子屋委員会。秋山義徳さんが途中から参加して下さる。 5/29

○朝粥坐禅会 十六名参加。 6/2

○須坂市・豊楽庵 高津ドロテーさんの信州須坂・豊楽庵にて滴水道場の落成式。父、母、梅林さん親子、坐禅会渡辺さんと。夕方から儀式。真言宗の僧侶が導師でした。 6/6

○建長寺 法話大会で法話。「令和を迎えて」という基本テーマがあり、皆さんそれぞれ令和を法話。 6/8

○薬師講 晩に役員会。七月十五日施餓鬼、灯籠流し等の協議。 6/16

「お寺から皆様へ」墓地使用権の継承について

宗禅寺 高井 和正

昨今「墓じまい」や「散骨」という言葉が聞かれるようになりました。少子化や各ご家庭のご事情により、先祖代々のお墓を次の世代に継承していくことが難しくなってきたという実情があります。永代供養の合同墓のご使用をご希望される方もいらっしゃると思います。そこでお寺から皆様に、お墓についてお知らせしておきたいことを書かせていただきます。

◆お墓とは？

お墓とは、人の亡骸を納める場所です。お墓を所有するお家が存続する限り未来永劫、その土地の使用権を墓地の管理者が認めているものです。但し、その土地の使用の用途をお墓として使用することに限定しています。

お墓の建っている土地の所有者は墓地の管理者（宗禅寺等）になりますが、土地の使用権とお墓の石塔はお墓を建てた方ご本人の持ち物となり、相続継承していく自己財産となります。

お墓を使用するルールに関しては「墓地・埋葬等に関する法律」によって法律上の最低限の規定がありますが、最終的には墓地の土地の所有者である、墓地管理者の規定する規則に則って運営されます。宗禅寺の境内にお墓を所有されている皆様は、宗禅寺の墓地の規則を守らなくてはいいことになります。市内にある羽村市が運営している富士見霊園の場合も、霊園使用規則があり、必要に応じて書類の提出や使用料の納付をしないけません。

それでは宗禅寺霊園墓地の場合について書かせていただきます。

◆お墓の使用権の継承は一人に限らず、ご兄弟やご親族共同でも可能です

お墓の使用権の継承は、どなたか一人の方がしなければならぬと思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、宗禅寺墓地の場合は、ご兄弟やご親族共同で一つのお墓を継承・使用されても大丈夫です。

○共同使用するにはお互いの了承が必要

例えばご兄弟で共同使用する場合は、ご兄弟同士のご了承はもちろん、ご健在であればご両親、さらにご結婚されていれば奥様（檀那樣）のご了承が必要となります。また、ご夫婦のお互いのご実家のご両親を同じお墓に埋葬することも可能です。いずれの場合も、共同でご使用いただく皆様と一緒にお寺にお越しいただき、その旨をお伝えいただければ大丈夫です。

◆共同永代供養塔について

宗禅寺に永代供養墓があるのをご存じでしょうか。墓地の入口の六地藏様のはす向かい、竹林のとなりに建っています。ただし、現在は墓じまいをされる方等、限定的に使用されています。

将来的には共同の永代供養塔を新しく設ける必要性も感じております。お墓の後継者のおられない皆様や、後継者がおられない、時代を経て、ご自分のお墓の納骨堂の中がお遺骨で一杯になった場合にお使いいただく供養墓です。

◆散骨について

最近流行している散骨ですが、現状では死体遺棄にはならないとの見解となっておりますが、法律的にまだまだ整備が進んでおらず、将来的には禁止となってしまう可能性もゼロではありません（すでに自治体の条例で禁止されている場所もあります）。

散骨する場所としては、山林、海、河川の三カ所が考えられますが、山林の場合は土地の個人の所有者様もおられます。また、近くで農業をされている方にとっては、散骨によって風評被害が出る可能性もあります。

また、海や河川は公共の場所であり、特に海は漁業を営んでいる方々との関係も出てきます。海産物の養殖などをしている海に、お遺骨を撒いてしまうという行為は、漁業関係者にとっては迷惑そのものでしかありません。

散骨は自然に立ち返るという点で、非常に好意的に見られている方々もいらっしゃるかもしれませんが、散骨しようとしているその場所を生活の基盤にしておられる方々のお気持ちも考えねばならず、実際にはあまり現実的な方法ではありません。

◆大切なことは

お墓の継承に関しては、まずはご家族皆様で話し合いのお時間をお取りいただくことが一番大切です。ご両親のご希望とご子息様のご希望が合わない場合もあるかと思えます。お互いのお墓に対する考え方を理解し合い、お互いにとって最善の道を一緒に考えることが大事であると思います。

現代では会社勤めの人が増え、仕事での転勤など、親御さんとご子息様の生活の基盤が全く違う場所にあることが多いです。昔のように先祖代々のお墓をしっかりと守っていくということも難しくなっているのは確かです。

宗禅寺としては、現在お寺にお墓を所有されている皆様は、貴重なお墓を既に所有されていることとなります。お一人様での継承が難しい場合は、ご兄弟やご親族皆様の共同での所有、継承をおすすめ致します。みんなで一つのお墓を大切に継承していく時代がやってきています。

◆宗禅寺墓地の現在

宗禅寺境内の福生側の墓地にまだ空きがございます。お寺に納めていただく使用料

は少々お高いですが、一区画百五十万円になります。他にも、標準より少し狭い区画もあり、こちらの使用料はご相談をさせていただきます。お寺までご見学にお越し下さい。

また、宗禅寺の墓地をご使用されていない皆様も、お墓のことなどお気軽にご相談下さい。

◆ペットの供養墓

これまで宗禅寺にはペットの動物のお遺骨を埋葬するお墓がありませんでした。近いうちに、境内墓地内にペット供養墓を建立しようと考えております。続報をお待ち下さい。

宗禅寺観音募金

(平成31年3月9～令和元年6月27日)

皆様からの募金、お資金をこのように使っています。ご協力ありがとうございます。

前回繰越 31,021円

収入 120,858円

支出 120,000円

内訳 30,000円 羽村市社会福祉協議会様
30,000円 あしなが東日本大震災遺児支援募金様
30,000円 西東京臨済会災害支援部様
30,000円 建長寺観音募金様

繰越 31,879円

土曜講座のお知らせ

皆の衆・皆の寺。「みんなで創ろう、地域の文化を、人から歴史から」。学びを楽しむ場です。おでかけ下さい。お茶代三〇〇円。学生さん無料。予約不要。

◆第三十四回 七月二十日(土)十三時～十六時
住職 高井和正

・多摩川漁協の仕事
・奥多摩漁協副組合長 浜中喜久雄さん
・多摩川と魚の魅力

◆第三十五回 八月二十四日(土)十三時～十六時
住職 高井和正

・東京海洋大学 客員教授 奥山文弥先生
・ピオラ演奏 田村しおりさん
・中根吾一少尉と終戦秘話 中根 康雄さん

※皆さんからも終戦秘話をお話し下さい。
◆第三十六回 九月十四日(土)十三時～十六時
住職 高井和正

・仏教講座
・宗禅寺薬師堂のこと 閑栖 高井正俊
・仏像の話しー薬師如来・運慶

◆第三十七回 十月十九日(土)十三時～十六時
住職 高井和正

・私をしている事ー放射線と最新医療ー
・テクノランド社長 清水 孝志さん
・法話「仏教のこと、あれやこれや」

青梅市 曹洞宗 閑修院

住職 田中正哉師

鎌倉禅研究会開講のお知らせ

平成十六年から始まった研究会もおかげさまで百五十回を越えました。皆様の変わらぬ勉強心のもと、継続しております。おかげさまで彭丹先生の蘭溪語録現代語訳も完成に近づいております。今年度も引き続きお出かけ下さいますよう、御案内致します。又、お知り合いの方にぜひ、お声掛けをお願いいたします。資料代五百円と会場寺院の拝観料をご負担をいただきます。予約不要です。

◆第百五十五回 七月十八日(木) 於建長寺應供堂
・豊後の国と建長寺 蘭溪中巖大拙・定山寂而
・建長寺調査員 鈴木 佐 先生

・鎌倉文化と大分・万寿寺
・大分市教育委員会参事 坪根 伸也 先生
◆第百五十六回 八月二十二日(木) 於建長寺應供堂

・御家人安達氏と中世の鎌倉
・金沢文庫学芸員 貫井裕恵 先生
・鎌倉の禅寺と神祇ー江島明神・鶴岡八幡ー
・鎌倉国宝館館長 鈴木 良明 先生

◆第百五十七回 九月十九日(木) 於建長寺應供堂
・禅宗渡来以前の鎌倉仏教
・早稲田大学大学院 白川 宗源 師

・鎌倉仏教と蒙古襲来
・東京大学講師 大塚 紀弘 先生
◆第百五十八回 十月十七日(木) 於建長寺應供堂

・達磨さんと聖徳太子(仮題)
・明星大学助教 芳沢 元 先生
・中世の喫茶文化

京都府茶業会議所理事 橋本 素子 先生

宗禅寺毎月の活動

ーお寺で新たな自分の発見をー

- 朝粥坐禅会…… 毎月第一日曜日 朝6時～8時半 一日の始まりに坐禅。坐禅後、禅の作法でおかゆをいただきます。7/7 8/4 9/1
- 土曜坐禅会…… 毎週土曜日 子供:夕6時～7時 大人:7時半～9時半 繰り返し繰り返し深い呼吸を。イス坐禅もあります ※8月3日は羽村灯籠流しのため、お休み致します。お盆中(7月13日～16日)毎朝6時～7時開催。短い時間で初心者向きです。
- お盆早朝坐禅会…… 毎月一回の勉強会。13時～16時 地域文化の共有と創造を目指し、地域伝統を後世に。
- 土曜講座…… 毎月1日、11日、21日、1時～3時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。
- 写経会…… 毎月第1・3火曜日 1時半～3時 指導:高井淑子
- 御詠歌…… 現在2クラス開講中。月一回。講師:島田辰夫先生
- 手打どん教室…… 毎月第1・第3土曜日 13時～16時まで 講師:新井達矢先生 場所:宗禅寺禅センター 仏像や能面を自分で彫ってみませんか? 月謝5000円(道具、材料費は要別途)
- 木彫教室…… 毎月1回、適宜。問い合わせ先:中野つたえ ☎554-2444
- 俳句教室…… 毎月第1、第3月曜 夜7時半～9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合わせ:坂井陵童 ☎554-3273
- 健康体操の集い…… 毎週金曜日14時～16時 直接、禅センターにお越し下さい 予約不要
- 女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会 ——活動中です——
- 宗禅寺禅センターをお使い下さい。